

第2回 横浜市磯子区民文化センター指定管理者選定評価委員会会議録	
日 時	令和5年2月2日(水) 14時00分～16時30分
開催場所	磯子区役所7階701会議室
出席者	阪本委員(磯子区文化協会邦楽部理事) 徳永委員(東京地方税理士会横浜南支部税理士) 中島委員(東京都水の科学館統括責任者(株式会社乃村工藝社)) 三上委員(洋光台連合自治町内会会長) 箕口委員(東京藝術大学大学院准教授)
欠席者	なし
開催形態	公開(傍聴者2名)
議 題	1 第4期横浜市磯子区民文化センター指定管理者業務評価について 2 その他
決定事項	1 第4期横浜市磯子区民文化センター指定管理者業務評価について ・各評価項目の評点を以下のとおり決定した。 使命1について「B」、使命2について「C」、使命3について「C」、 使命4について「B」、使命5について「B」、使命6について「C」、 収支計画及び指定管理料について「C」 ・評価報告書(構成案)について、案の通り承認。評価に関するコメントを加え、 後日、磯子区長に提出し、公表することとする。
議 事	<p>1 第4期横浜市磯子区民文化センター指定管理者業務評価について</p> <p>(1) 指定管理者による自己評価の説明 指定管理者から自己評価の説明に関するプレゼンテーションを実施した。</p> <p>(委 員) ホールは無観客でイベントを実施しているものもあったが、ある程度制限がなくなってきたのはいつ頃か。令和3年度に入った頃か。</p> <p>(指定管理者) 令和2年度からできるものは人数を減らして有観客で実施していた。ホールの利用率も令和2年度9月以降は50%～60%程度。コロナ禍において使う人、使わない人の二極分化となった。令和3年度に入ってからはいよいよ戻ってきた印象。</p> <p>(委 員) 令和3年度は感染対策をすればある程度イベントができる状況だった。あまりにもコロナでできなかったことが多く、残念だ。</p> <p>(委 員) コロナ禍の運営については、施設まかせとなっていたのか。</p> <p>(指定管理者) 横浜市から文化施設の運営に関するガイドラインが発出されていたので、それをもとに施設ごとにアレンジして運営を行っていた。</p> <p>(委 員) 市の行政評価においては、中期修繕計画を出して欲しいとあるが、これについては指定管理者としてはどう考えているのか。</p> <p>(指定管理者) 修繕については、指定管理料でまかなえる額を上回っている。設備の老朽化により、メンテナンスよりも更新が必要な状況となっており、修繕計画を作成しても指定管理者が実施できる範囲が狭い。指定管理料で実</p>

施できることはすでに実施している。実施できないことが多いので、計画に落とし込めない。

(2) 行政評価の説明

事務局から行政評価の説明を実施した。

(委員) 毎月、モニタリングの機会を設けているというが、それでもこんなに自己評価と行政評価が食い違うのか。

(事務局) 事業の進捗状況や修繕の状況等、確認を行っている。その際は指定管理者とも同じ認識に立っていると感じていたが、問題視している点がすり合っていない部分があるため、日ごろのやりとりの中でしっかり伝えていかななくてはならないと感じている。

(委員) 中期修繕計画については、費用の問題で作成できないということではなく、計画は作成するべきである。その認識についても、指定管理者と行政側でずれが生じている。

(委員) 指定管理者は危機管理についてはうまくまとめて評価しているが、リスクを未然に回避するというリスクマネジメントの視点が入っていない。リスクマネジメントの視点で施設運営上の課題を見ていく必要がある。

(委員) 指定管理者が事業を実施することにエネルギーを注いでおり、そこは評価できる点である。しかし、指定管理者制度が指定管理者に求めている業務は、建物を管理する面とリスクマネジメントも含めた運営面の両方である。これらを二つに分けて、月々のモニタリングのときに話し合いを行っていく必要がある。

(事務局) 事業は頑張っていると思っている。指定管理者と本質の部分で合致できていない点があり、行政としても反省している。今後、区民の方々からより愛される杉田劇場になるために、指定管理者には行政の評価を再認識してもらいたいと考えている。

(3) 選定評価委員会による外部評価

・使命1について

(委員) コロナという特殊事情がある中でも模索してやってきたことは評価できる。

(委員) 時間短縮営業や人数制限もある中でよく頑張ったと思うが、指標のところではできなかったところがある。

(委員) 自己評価の中で「実施できなかった」と白旗を掲げてしまっているところがある。そういう意味では「A」にはできない。

・使命2について

(委員) ボランティア組織の再建は今後の課題であると思う。重要な努力目標がここにあるという意味で「C」ではないか。

(委員) 令和4年度はいわゆる脱コロナ元年といえる。今までどおりのやり方

ではやっていけない。やり方を変える工夫を認識してもらいたい。

(委員) ボランティア組織については、休館等で活動ができないということであれば、代替案があったのではないだろうか。参加が難しいということでは解散するのは、文化的コモンズを形成する観点からもマイナスにせざるを得ない。

(委員) 助っ人隊の活動の場を広げると書いてあるのにもったいない。

(委員) インターンのユーチューブ動画の作成など、コロナ禍において計画変更を行いながらも努力したところは評価できる。

・使命3について

(委員) 磯子音楽祭を完全にやめてしまっている。以前から継続して実施してきているイベントであり、非常に盛り上がりを見せていた。コロナを理由にして簡単にやめてしまっているが、工夫して実施するべき。

(委員) ユーチューブチャンネルに見られるように、ICTの活用は前進しており、評価できる。「C」評価になっているが、今後の期待を込めていることを指定管理者には伝えたい。

・使命4について

(委員) 学校との連携はきちんとできている。杉田劇場の取組の一つの柱だと思う。

(委員) 子供たちを大切にしようというところは大切である。子供時代に劇場に触れているかどうかは、大人になってから音楽鑑賞等に興味を持つかどうかに関わる。

・使命5について

(委員) オープンフェスティバルというのはどのようなものを想定しているのか。

(事務局) 具体的なものはまだ策定できていない状況である。

(委員) 個人情報の漏洩事故とはどのようなものか。

(事務局) メール誤送信や利用許可証の誤交付である。再発防止策も含めて対策はきちんととっていると認識しているが、新しいスタッフにきちんと継承されているか不安な面もある。

(委員) 再発防止策を徹底してもらいたい。

・使命6について

(委員) 指定管理者と行政が同じ方向を向いていないのではないかと。

(事務局) 方向は一緒と確認しているが、指定管理者のタイムマネジメントが甘いように感じている。例えば、見積をとるスピードや発注のタイミングなど。

(委員) 共同事業体としての指定管理者だが、指定管理者の中の統率はとれて

いるのか。

(事務局) 行政としてはあくまで指定管理者の代表である館長や副館長と話をしている。

(委員) 一步踏み込んで、よく協議をするべき。施設の老朽化ということですからむようなところではない。今後の施設の保全について、どのように計画していくのかは指定管理業務の範囲に入ってくるので、行政とぜひしっかり協議してもらいたい。

(事務局) 指定管理者とはしっかり議論していく。

(委員) 「C」評価は指定管理者に頑張ってもらいたいという思いを込めている。行政もきちんとやって欲しい。両者でコミュニケーションをとってすれ違いを改善してもらいたい。

・収支計画及び指定管理料について

(委員) コロナ禍で収入が減っていると思うが、固定費は出ていってしまう。このままではお金がないから事業や修繕ができません、ということになってしまう。収支計画は工夫し、考えていく必要がある。

(委員) 例えば、クラウドファンディングを実施するなど、増収に向けた努力をしていない。

(委員) 指定管理者としては、利用料金収入の減収、利用者の消費マインドや生活習慣の変化、光熱水費高騰等、先行きが不安だということしか言っていない。計画自体を抜本的に見直す必要がある。施設も老朽化してきているので、今後、幕があげられないという壊れ方をする可能性もある。仕様書に書かれていることが全て実現可能なのか、何が杉田劇場に必要なのかを行政と指定管理者で徹底的に話し合いを行うべきである。規模を縮小したり優先順位をつけるなど、限られた財源の中でどうやってやりくりするのか、次年度以降の業務計画を見直すべきである。

(委員) 中期修繕計画を策定したうえで、支出を洗い直していく必要がある。

・総括

(委員) コロナ禍のたいへんな状況で二年間運営を行ってきた。できなかったことが多いのは残念だ。このような時期だからこそいろいろな努力をしてやっていくべき。二年間の評価をもとに、今後の努力に期待したい。修繕についても、できるだけ小さな修繕のうちにやっておけば、大きな修繕を予防することができるので、日常的にやって欲しい。

(委員) 杉田劇場は市民の財産として建てられており、指定管理者制度において市と指定管理者はいわば同じ船に乗っている。両者が力を合わせてうまく運航して欲しいと思う。様々な面で意思疎通が不十分な点が浮かび上がったが、モニタリングの機会を活用し、話し合えば解決できると思う。建物の老朽化が進んでいる中で、問題を早めに洗い出し、両者でゴールを共有したうえで、喫緊の課題に向けてどこにお金を使っていくのか、行政と

	<p>指定管理者で話し合ってもらいたい。</p> <p>(委員) 今後の収支計画を抜本的に見直す必要がある。お金が足りないようであれば外部からお金をどのようにもってくるか、また、これからの事業内容も再検討が必要である。</p> <p>(委員) コロナ禍での施設運営については、本当におつかれさまでした、と伝えたい。令和4年度に入り、コロナから復調が見られるが、人々の文化に対する意識は下がっていると感じている。コロナによりもたらされた新しい状況の把握がたいへん重要であり、それに基づいた対策を考える必要がある。従前からつくられた計画を実行するのではなく、劇場にとって新しい計画を市と指定管理者が協議のうえで立てていくことが必要である。市と指定管理者の信頼関係に基づき、必要なことは大胆に見直し、市民の皆様のためになる活動に取り組んでももらいたい。今後の施設運営に大いに期待する。</p> <p>(4) 評価報告書（構成案）について 事務局から評価報告書（構成案）について説明し、案のとおり承認された。</p> <p>2 その他</p> <p>委員会における委員のコメントをまとめたうえで評価報告書（案）を事務局で作成し、委員の確認を経たうえで評価報告書として確定する。</p>
<p>資 料</p>	<p>資料</p> <p>(資料1) 第4期横浜市磯子区民文化センター指定管理者業務評価表</p> <p>(資料2) 第4期横浜市磯子区民文化センター指定管理者業務評価一覧</p> <p>(資料3) 自己評価及び行政評価一覧</p> <p>(資料4) 令和4年度 第4期横浜市磯子区民文化センター指定管理者業務評価報告書（構成案）</p> <p>(資料5) 横浜市磯子区民文化センター指定管理者選定評価委員会運営要綱</p>